

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of long working hours with psychological distress in men with pregnant partners: An observational study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中のパートナーを持つ男性における長時間労働と精神的苦痛との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2025 DOI: 10.1371/journal.pone.0326864

筆頭著者名: 稲寺 秀邦

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

長時間労働はメンタルヘルスに影響を及ぼすが、妊娠女性のパートナーである男性において労働時間と精神的苦痛との関連についての報告は限られている。エコチル調査に参加した妊娠女性のパートナーを対象に、長時間労働と精神的苦痛との関連について検討した。

方法:

エコチル調査に参加している 44,996 名の男性に 1 週間の労働時間を質問票により尋ねた。1 週間の労働時間は ≤40 時間、>40~45 時間、>45~50 時間、>50~55 時間、>55~65 時間、>65 時間の 6 群に分類した。アウトカムは 6 項目からなるケスラー心理的苦痛スケール (K6) で評価し、5~12 点を軽度精神的苦痛あり、13 点以上を重度精神的苦痛ありと定義した。多項ロジスティック回帰分析によりオッズ比を算出し、両者の関連を検討した。

結果:

共変量で調整した最終モデルにおいて、労働時間が長いことと精神的苦痛が関連していた。1 週間の労働時間が 40 時間以下を基準として検討すると、軽度精神的苦痛のオッズ比 (95%信頼区間) は 55~65 時間の者で 1.12 (1.03-1.21)、65 時間を超える者で 1.34 (1.24-1.45) であった。重度精神的苦痛については、65 時間を超える者で 1.84 (1.47-2.32) であった。傾向検定において、労働時間の長さと精神的苦痛の間には正の関連が認められた。

考察(研究の限界を含める):

妊娠女性のパートナーにおいて、1 週間の労働時間が 55 時間を超えると軽度精神的苦痛、65 時間を超えると重度精神的苦痛と関連する可能性が示唆された。これらの結果は、長時間労働がメンタルヘルスに悪影響を及ぼす可能性を示唆している。本研究の限界として、横断研究であるため因果関係を断定できないこと、労働時間や心理的苦痛が自己申告に基づくため情報バイアスの可能性があること、職務内容や職場環境、性格特性などの要因を十分に考慮できていないことが挙げられる。また、対象は妊娠中のパートナーを持つ男性に限られており、他の集団への一般化には注意が必要。

結論:

妊娠女性のパートナーにおいて、労働時間が長いことは精神的苦痛と関連することが示唆された。